

体育協会役員

[illegible]

体育部長

去る八月十三日から十五日までの三日間にわたって、盆恒例の町民体育祭野球大会、競舟大会が開催された。

野球大会は、13・14日の二日間総合グラウンドにおいて、20地区が参加して行なわれた。

この大会には、お盆に帰省された方も各地区のチームの一員として、一緒にプレーした。

今年の大会は、優勝候補にあげられていた平国下が一回戦で川内チームに敗れ、波乱の幕開けとな

町民体育祭  
野球・競舟大会

お盆の恒例行事で賑わう



力漕する選手たち

の湯堂チームを招待し、特別レースを行う等、大会に一段と花を添えた。

決勝戦は、日添と日当の赤崎同士の一騎打ちとなり、両者接戦の末、日添が昨年に引き続き優勝を遂げた。

|              |          |    |    |
|--------------|----------|----|----|
| 優勝           | 上下門      | 二位 | 倉谷 |
| 三位           | 川内・福浦    |    |    |
| 【競舟大会】       |          |    |    |
| 優勝           | 日添       | 二位 | 日当 |
| 三位           | 大泊       |    |    |
| 【オープン中学生レース】 |          |    |    |
| 優勝           | 平国下・大泊   |    |    |
| 三位           | 大泊レデース海龍 |    |    |



優勝旗を手にする上下門チーム

トル)から三隻ずつの競漕。レースは、各地区3回ずつ出場して、タイムと得点で争われた。

今年の大会は、中学生レースに女性チーム(大泊レディース海龍)が参加し、応援も例年になく盛り上りを見せた。

また、鹿児島県根占南蛮チームと水俣

六月十二日から七月六日まで毎週火曜・金曜の八日間、バドミントン教室が開かれました。

男女合わせて二十名余の参加、小学生から壮年層まで、中には親子づれの組もあり、協会の方の指導により午後八時から二時間、みっちり練習を続けました。

基礎から練習を始め、段階的に程度を高め一応試合ができるまでマスターすることができました。

皆さんご苦労さんでした。

## 編集室から

▼残暑お見舞い申し上げます。  
今年の夏は異常とも言える記録的な猛暑になり、うんざりしましたね。しかし、この頃はすこし涼しい風が吹いてくるようになり、秋の近まりを感じます。体調を整え、皆さん一緒に頑張ってください。

體育指導委員

|       |      |       |
|-------|------|-------|
| 津奈木美孝 | 鶴野賢二 | 村上広   |
| (浜崎)  | (染竹) | (平国上) |

津奈木

前史力志

発行所  
津奈木公民館  
芦北郡津奈木町  
電話(78)3111代  
印刷所 旭印刷  
電話(水俣) 64101番

▼郡公民館研修会行われる

去る七月十三日、本町役場三階大会議室にて郡下各町の関係者九〇名が参加して公民館研修会が開催されました。この中で、矢部町田小野分館長成瀬人司さんの「子ども会活動の育成について」の講演、続いて郡下三町より一名づつ実践事例発表があり、夫々創意工

公民館活動を

## 見直そう

▼公民館の意義と事業について

公民館とはどんなところで、どんな役割をもっているのかを知っておく必要があるでしょう。

第二次世界大戦後につくられた市町村の設置する社会教育のための機関であります。社会教育法第20条に「公民館は市町村その他一定区域内の住民のために、實際生活に即する教育、学術及び文化

に關する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、

に公民館が設置されています。その中には名称を多目的研修施設、集落集会研修施設、コミュニティセンター等と呼んでいるところもあります。また、運営について専任の館長を置いているのは小津奈木だけで、他は区長兼任となっています。参考までに田浦町では八人の専任館長、芦北町では百余の公民館の殆どが専任の館長で運営されているとのことです。

各地区の公民館活動については、いろいろな行事が企画、運営され

公民館は各地区の文化の拠点でありますから、活動を活発にし、地域の活性化につなげたいものであります。公民館と地域住民とのつながりをもっと深くし、地域のめになる公民館、地域に親しむ公民館、地域に愛される公民館になるよう皆さん全部で協力し頑張ってみましょう。(林田記)

この頃はどうか、車社会になり家から職場へ、買物も車の社会になった。隣近所顔もみず話すことのない日が何日も何十日もある一昔前の東京のことを思い出す。我が国は高度成長で豊かになり、物はあり餘り、衣食はこれ以上ない程だ。この先どんな生活がまつているのだろうか。

今、物の替りに人の心はさびれ、自己本位になった。

昔のような他人を尊敬する豊かな心がほしい。

## 一 言

一昔前東京の人達は、隣の人の顔も知らず、話すこともなく暮らしているという話を聞いて、どんな生活だろうと不思議に思った時代もあった。

当時田舎では、祭りには手作りの料理をして家族皆んな氏神に参拝し、隣近所お客さんも一緒になつて楽しい一日を人との交流親睦ですごしたものだつた。

人がなくなると、地区総出で墓堀りや造花も長老に習いながら作り、ガンや位牌も尋ねて作り、料理もすべて手作りだった。そして故人をしのんで悲しみ慰め野辺の送りをした。

そのほかすべてが喜びも悲しみ  
もお互い助けあい励ましあつて暮  
らした。

この頃はどうか、車社  
会になり家から職場へ、買物も車  
の社会になった。隣近所顔もみず

話すことのない日が何日も何十日もある一昔前の東京のことを思い出す。我が国は高度成長で豊かこ

なり、物はある餘り、衣食はこれ以上ない程だ。この先どんな生活がまつているのだろうか。

今、物の替りに人の心はさびれ、  
自己本位になった。

昔のような他人を尊敬する豊かな心がほしい。

地域をおこす人々(11)

津奈木の名声を高め

頑張り続けるドラゴンチーム

毎年八月十五日の競舟大会は津奈木町の伝統行事としてすっかり定着して参りました。鐘の音に合わせ、漕ぎ手全員の力を結集し、水しぶきをあげて進む姿は大変勇壮で胸踊る思いがします。

この競舟で各地を転戦し、見事上位入賞津奈木の名声を高めているチームを見逃してはなりません。その名は津奈木海龍(ドラゴン)と云います。昭和六十二年大阪で



練習に入り、毎日午後七時から約二時間、つらき練習を積み重ね、またウエイトトレーニングを行っ

読書感想文

「まっていた校生」を読んで

津奈木小学校三年 釜 辰徳



ぼくはこの本を読んで、明君は十八回も転校してすごいと思いました。明君のお父さんは旅役者で全国をまわるので、二年生の三学期まではおじいちゃんの家にあずけられていました。三年生になつてから、しばいに出るようになったので、それで引っこしを十八回もしています。転校すると、友だちや先生ともわかれなければなら

ないで、明君はいやだと思っっています。もしぼくだったら、やっぱり同じ気持ちになっちゃうと思います。勉強もおくれるし、新しい学校ではなかなか友だちができなかつたり、いじめられたりするのかわいそうです。ぼくは、転校生が来たらやさしくしてあげようと思います。

明君は、さいきはもうベテランです。十九回目の転校先は東京の学校でした。その学校では、けんかした友だちと、仲よくなりました。ぼくは、けんかをするのはよくないけど、その後友だちと仲よくできるのは、いいことだと思いました。やっと学校になれたこ



この立派な成果をあげるのには、やはり悩み、苦労があります。第一に選手集めのこと。次に資金面での心配。旅費は町よりの寄附と各種団体や個人からの寄附で賄っている現状です。皆様のご芳志をお願いいたす次第です。チームの面々は実力日本一となり、世界のトップレベルまで進出したいとの大きな夢を持っています。ますます頑張る津奈木の心意気を示してほしいものです。

ブロンズ

「若い女」一九七七

岩野 勇三



所用があり、急ぎ庁舎に駆けこもうとする時、この像が目に入る。「緑と彫刻の町」津奈木には、6点の岩野氏の作品が街路に設置してあるが、私が一番魅了されるのが、この小品である。

若い女性の清楚な美しさが、柔かいフォルムと控え目な動きの中に感じられる。多忙の中「ホッ」とする一瞬だ。(T)

庁舎美術館(31)

銘木紹介

新川土堤の櫨の木

はぜ



河川敷に一本のこされた櫨の木

秋が深まり霜が人里に追つくと、津奈木手永の山は真赤に燃えた、といつても過言ではなかった。

元禄十五年(一七〇二)主君の仇を討った大石良雄が他の同志十七名と細川邸に預けられ、厚遇のお札にと、切腹の前に「櫨を栽培したら国益になりましょう」と勧められて始つたという話がある。

肥後藩でも寛文十一年(一六七二)に櫨、櫨の仕立方を奨励して

いたが本格的に取り組むようになったのは享保八年(一七二三)以降のことである。

津奈木では、松山だった蛭子山を江戸龍ノ口邸用材に伐られた後櫨櫨見縮役斎藤辰右衛門の努力により櫨が植付けられ、水俣小田代侍の櫨山につぐ肥後第二の生産量を誇るようになった。

天保十一年(一八四〇)六車八郎の「櫨方御諸控」によると、蛭子山は更に松を櫨に換え、各地区競つて櫨山を仕立てるようになる。

この記録からすると、樹令は百五十年から百六十年に達する。昭和三十年代までは、川の両岸には桜と櫨が混植され、春は花吹雪、秋には真赤な紅葉が川面に映えて人々の心を和ませてくれた。その後、河川改修や道路の拡幅によって次々に伐り倒され、現在この一本だけが辛じて残されている。この木も寄る年波で皺が多くなり風格を備えるようになってきた。

来しました。物を粗末にする心は人の命もまた人とも思わない恐ろしい心につながって来ます。

「無憂華」の巻頭に「生きていると言ふことは誇るべきことではない。生きている私こそは天地一切のお蔭をこうむり生かして戴いている私であると言ふことに気がついた時に、思わず両の手が合わされて一切に感謝する心にならされて戴く」そうです。一切のお蔭の中に生かされているのです。「独りじやない」皆によかれよかれと見守られて、生かされている私であることに早く目ざめたものです。そこに自づと喜びと感謝の合掌の生活がおとすれてくるものと信じ

白波の寄せてさげろ磯浜に釣りたのしみ頃を忘れ得じ 鳥居 保

足立たぬ吾置き去りに時は往くノテウ去り短歌会も終る さわやかに笑顔のこして雲の上秋篠宮薫れそよかせ 小嶋 正弘

豊かさの故には非らず三反の米作農家もトラクター購う 夏かせに苦しむ吾にクーラーも扇風機も止め妻も耐えいる 宮崎 優

「一口メモ」歌は一点集中主義で核心が二つに分裂しては統一を欠く 肥後狂句 堀 双岳選

年から年中、羽根の生えとる銭ばかり 秋立つて、裸大将がシャツ買わす 柳迫 白波

年から年中、すもとりさん丸はだか 秋立つて、虫楽隊に庭貸そう 鳥居 雲波

年から年中、焼酎ビンと暮らしおる 秋立つて、イの一番にかぜもろた 林田 万葉

年から年中、喧嘩の種もあるもんね 次笠 堀 双岳

ふの良かよ。良か機嫌。一笠二句づつ。十月末日まで。津教委宛。

ひとりじやない

福田 信順

「ひとりじやない」との一枚のポスターが先日、本山より送ってきました。見ると、女子大生がカバンを提げお寺の山門の石段に立って、輝がやかしい希望をみつめてにっこりとほほえんでいる明るい感じのポスターです。

現今の青少年の非行はその極に達し家庭教育、学校教育、社会教育のあり方が問題視されています。その大きな原因の一つは家庭での愛情不足に起因するものと思われ

悲しい自殺者の数は青少年と老人がその大半を占めています。その原因の主なるものは青少年への愛の一声もかけてくれない淋しさ冷たさと又、老人になつての不治の病と心から慰めてくれる人もなく、残り少ない人生に対する失望と

じて戴きたいものと思ひます。最近人道が次第に地に落ちて行く感を受け、物質万能一も二も三も金の時代に落ち込みました。そうかと言つて物を大切にすることかと思はばきに非ず、大変粗末にあつた感謝の気持ちがうすらいで

梅雨に曇る窓のガラスに向かいつつ吾が指先は短歌まさぐる 時計針アーチ辿りつ咲きてゆく朝夕ぐるたびに見上げる 白浜 美和子

雨蛙鳴く音愛しく目をやれば庭木の若葉のみどり目にしむ